

普及活動情勢報告（平成25年6月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

チャノホコリダニ防除のために・・・天敵利用講習会・・・	
	6月6日、JA高知はた中村支所オオバ部会（8名）を対象に天敵利用講習会を開催しました。 講習会では、天敵の効果と使用特性について説明を行い、計画的な天敵利用の推進を図りました。 天敵は速効性のある化学農薬とは違い、被害を広げないための予防手段であることが理解され、昨年からチャノホコリダニの被害を受けた生産者から、「天敵を導入して防除を成功させたい」という声が聞かれ、意欲向上に繋がりました。 チャノホコリダニの被害軽減を目指して、これからの巡回指導でフォローアップを行って行きます。

「ニンジンイモ」の生産を目指して ・・・「ひがしやま」用のイモを共同栽培しよう・・・	
	5月30日に、四万十市常六地区で、東富山を守る会ひがしやま加工部メンバー7名が参加し、約15aの共同ほ場の準備及びニンジンイモの定植を行いました。 育苗の失敗や天候の影響もあり、例年に比べ定植時期が遅くなりましたが、6月下旬には、全ほ場での定植が終了する予定です。 振興センターは今後も引き続き、共同ほ場での栽培や共同加工に向けて取り組みができるように支援していきます。

次代の文旦産地を担う若手栽培者へ・・・幡多地区文旦協議会後継者研修会・・・



5月30日、文旦の新規就農者及び就農5年目以内の担い手(参加者13名)を対象に、6～7月の栽培管理および病虫害防除について研修を実施しました。

参加者からは、「昨年適正な防除を実施して外観品質が向上した」「病虫害の基礎知識を勉強し、適正な防除方法が分かった」といった声が聞かれ、活発な情報交換ができました。

次回は7月中旬頃に摘果講習を開催する予定です。

セルトレイ苗を活用しよう

・・・オクラ現地検討会の開催・・・



宿毛のオクラ生産者を対象に5月27日、セル苗利用の現地検討会(参加者20名)を開催しました。

3月26日に移植したほ場は、生育の揃いも良く低節位から開花が見られています。参加者からは育苗方法や移植後の管理などについて質問も多く出され、関心の高さがうかがわれました。

セル苗移植栽培はコストはかかるものの、メリットも多く、今後も定期的に現地検討会を行い、普及を進めていきます。